

コーディネーション

コーディネーション (coordination) は、「学校内外の援助資源を調整しながらチームを形成し、援助チーム及びシステムレベルで、援助活動を調整するプロセス」と定義されます(瀬戸・石隈 2002)。

子どもに直接・間接にかかわる人や環境を「調整」しながらチームでの指導・援助効果を上げようとする機能であり、学校教育相談活動の中心的な機能であると言えます。

コーディネーションの大切さ

子どもたちの指導・援助にあたっては、教職員が連携・協働し、チームでかかわることがたいへん重要です。しかし、現実には、教職員自らが意識的に求めなければ、なかなか促進しにくいという特徴があります。

連携・協働を促進し、チームでの支援が効果をあげるためには、コーディネーターとして、学校内外の人的・物的資源をつなぎ、チームをまとめ、調整していく役割を担う人が鍵になります。コーディネートは、学校教育相談でもっとも重要な専門性のひとつと言えます。

何をコーディネートするか

コーディネーターは、大きく、次の2つを調整します。

チームの形成・活動の調整

個別のチームを作って指導・援助にあたる際、そのメンバーや日時、場所、必要な情報(資料)の準備等を調整します。

学校の組織的活動や専門機関等との調整

個別のチーム活動を支えるため、管理職との連絡調整や分掌間の活動調整、教職員間の情報共有や意見調整等を行います。また、保護者に対する啓蒙・広報活動や専門機関との連絡調整もします。

チームでの活動をコーディネートする

コーディネーターは、チームでの活動にあたって、次のことについて調整します。

チームの形成を調整する

チームでの対応の必要を説明し、チーム形成に動く。

メンバーに、会議の日時や場所、誰がどの程度の資料を準備するかについて連絡調整する。

チームでの活動をマネジメントする

チームの中で、問題行動の意味や苦戦の状況、資源等についてアセスメントし、具体的な対応策や役割分担を決定するための話し合いを調整する。

役割分担に基づく対応策の実施状況をこまめに把握し、困っている援助者に助け船を出すなど、メンバーを支える。チームと他の教職員との連絡・調整や管理職への報告・調整にあたる。

保護者や専門機関等との連携窓口になる

場合によっては、保護者と専門機関の仲介役となったり、保護者への情報提供を企画したりする。

専門機関やSC等との連携の窓口となり情報共有や役割分担の調整を行う。

コーディネーションのコツ

校種によって違いはありますが、教育相談係や生徒指導主事や学年主任、養護教諭がコーディネーターとなることが期待されます。

コーディネーターは、メンバーの一人一人と丁寧にかかわります。コーディネーターのかかわり方が、メンバーの士気や有用感に影響します。特に担任と保護者には、十分に配慮します。

チームの立ち上げやその後のチーム会議の開催に当たって、日程や時間配分、司会進行等細かい配慮・調整や軽快なフットワーク、会議を先延ばしにしない行動力が大切です。

コーディネーターは、集まる、話し合う、情報を共有するためのつなぎ役です

【参考文献】 石隈利紀・田村節子著『チーム援助入門』, 図書文化, 2003

学校心理士資格認定機構監修『講座学校心理士 - 理論と実践』第3, 4巻, 北大路書房, 2004